

---

# 人文会 ニュース

---

## 業務用

本屋さんはとても親しい場所だった

しかし……(二)……詩人 長田 弘 1

〈人文書講座 V〉

ニューエイジの中核・

トランスパーソナル……春秋社 岡野守也 17

特約店の選定を終えて……調企画委員会 28

'85.5 42

孫文死去60周年記念出版

# 孫文選集

監修＝山口一郎・伊地智善継

全3巻

孫文は、今日の新中国の礎を築いた革命家であり、思想家でもある。また、中国と日本の連帯、アジアと世界の平和を祈念しつづけた、あるべき日中関係の原点に立つ人である。本選集は、現在では入手がたい主要著作を収録。  
第一巻 革命哲学／革命観  
第二巻 中国革命史／国際政治観／対日観／孫文論他  
第三巻 三民主義 ●5月中旬刊  
●四六上製・平均四〇〇頁三〇〇〇円

社会思想社

東京文京本郷1-25・電話 813-8105

フロムの愛読者には必読の書！

# エーリツヒ・フロム

R・フランク／佐野哲郎 佐野五郎訳

人と思想

彼の生涯と思想を簡潔にまとめた、世界で最も完成度の高いフロム伝！ ■一八〇〇円

\*フロム著

愛するということ

八〇〇円

生きるということ 一三〇〇円

紀伊國屋書店

本店 東京都新宿区新宿3-17-7  
出版部 東京都世田谷区桜丘5-38-1

全2冊

# 意識のスペクトル

K・ウィルバー／吉福伸逸・菅 靖彦訳

意識の進化 エゴを超え宇宙へと広がる意識の全層構造を解明するスペクトル・モデルを提示、西洋心理学と東洋宗教を統合する大著。二四〇〇円  
〈6月刊〉

意識のスペクトル [2]

意識の深化 主要なスペクトルに関する様々な心理学説の妥当性を評価し、統合する。二四〇〇円

春秋社

〒101 東京都千代田区外神田2-18-6  
電話(03)255-9611 振替東京8-24861

赤祖父哲三

# 現代記号まんだら

ものゝ人言葉の急激な変様をフォロー。一八〇〇円 千250

小泉 仰／慶応大学価値意識研究会編著

# 子どもたちから見た世界

家庭・自己・友人・学校  
全国の小中学生四六六二人の価値意識。七〇〇〇円 千300

ローランド／ハリス 矢木公子他訳

# 仕事も子どもも

キャリアと母性を両立させるために。二二〇〇円 千250

東京文京  
後楽2-23

勁草書房

振替東京  
5-175253

## 本屋さんはとても親しい場所だった、しかし……(二)

詩 人 長 田 弘

どこでもいい。どこかの街へゆく。たとえその街がはじめての街であつても、いやはじめての街であればあるほど、たいていはまず、その街の本屋さんをみつめて、本屋さんをのぞく。本屋さんへゆけば、ともあれその街の性格がざっと掴めるだろうとおもう。というのも、本屋さんというのは、どんな街の店よりも、その街が息している空気をもっとも深く呼吸していて、その街のもつ雰囲気というのをいちばん正直にうつしているし、また逆に、そこにこういう本屋さんがあるということがその街の一つの表情をつくっている、ということがある。

いい本屋さんのある街というのは、まずきつといい街ですね。次にはその本屋さんへゆきたくて、その街へゆ

きたくなる。そうおもえる街がある。いい本屋さんというのは、けつしてそこに本があるというだけの場所じゃないんですね。本がある。それだけじゃ、じゅうぶんじゃないんです。店のつくり。たたずまい。ひろさ。入口。棚の配置。本の置きかた。採光。どんな本があり、どんな本がないか。あるいは、そこで交わしたちよつとした言葉。その本屋さんを実感させるのはそうした全体の印象のあつまりであり、それがその本屋さんがその街にもつぬきさしならない感情というものをもたらしている。そんな本屋さんのある街が好きですね。

たとえば、ニューヨークという街と、その街の本屋さんのことをかんがえるんです。ニューヨークの本屋さん

にはそれぞれにじつに独特の雰囲気があつて、そのそれぞれの独特の雰囲気はその店のある界限の雰囲気に、分かちがたくむすばれているようにおもえる。マンハッタンの五番街一八丁目にあるバーンズ&ノーブル書店。どんな本もあるというので、Of course, Of courseのキャッチフレーズで知られるおおきな本屋さんですが、通りをへだてて本館と別館に分かれて、本館は新刊本とテキストブックでそうおおきくもないけれども、別館は、日本にまずちよつとなし本屋さんといつていいかもしれません。

入口にクロークがあつて、手の荷物を預ける。エスカレーターで上つた二階がメインフロアですが、スーパーマーケットのようにすぐ広く、日本の数字に算えなおして、店内はあわせて八五〇坪ほどになるといいます。みわたして本ばかりなんだけれども、空間がたつぷりとしていて、フロアのあちこちにベンチが置かれていて、棚の本を手にとつて、ベンチでゆっくりみることができると、スーパーマーケットとおなじに店内にはカートがあつて、棚から本をあれこれぬきだしていつて、ベンチでじっくり確かめることもできる。カートはまた乳母車

を兼ねるようになってるので、幼い子どもをのせて本をみている若い母親をいつもみかけます。ジャケットなしといった半端本やニューヨーク特有のいわゆるレヴュー・コピー（書評用の本）をほとんど半値で買え、「ニューヨーク・タイムズ」のベストセラー・リストにのつてる本なら割引で買えるのも、この店の得がたいのしみですが、日に六千人が一万冊の本を買つてゆくといわれる本屋さんにしては、むしろ素っ気ないといつていいほどで、ざわついた雰囲気がなく、長い時間いて疲れない。なんというか、遊歩道のある本屋さん。そんなかんじなんです。

バーンズ&ノーブル書店はニューヨークをいかにも代表する本屋さんの一つですが、ニューヨークへいつたら寄りたいもう一つの本屋さんというと、それはどこの街角にもよくあるようなごく普通のちいさな本屋さんです。ブロードウェイ八一丁目のイーヨー・ブックス。『クマのプーさん』にでてくる年とつた灰色ロバの名を店の名にしていることでわかるように子どもの本の本屋さんで、北アメリカには子どもの本のいい本屋さんがすくなくないんですが、この本屋さんもそうした一つといつて

よく、日曜の午前には幼児のために語り聞かせの時間があり、午後には子どもの本の作家たちが誰かやってきてじぶんの本を読むので親しまれてる街の店で、その店へはいつてゆくと、じぶんがモリス・センダツクの画くおしゃまなロージーにでもなつたような、そんな気がしてくる。とても好ましい本屋さんですが、みかけは間口のちいさな、ごくありふれた街の本屋さんなんです。

いったいに北アメリカの街のちいさな本屋さんというのは、間口がせまく、ウナギの寝床といった具合であることもしばしばですが、そういった間口のせまい街の店に共通するのは、それだけに本の置きかたにゆきとどいた配慮と、ときには主張と提案があるようにおもえることです。通りに一番ちかい棚にどんな本を置き、さらに奥へどんな本をどのように置くかというその置きかたに、それぞれの店の個性というか、姿勢や表情がはつきりとでてくるんです。子どもの本の本屋さんであるイーヨー・ブックスの場合、入口に一番ちかい棚をしめるのはナーサリー・ライムを中心とする子どものための詩集で、そうして子どもたちが読んでもらって耳にするはじめての言葉を入口にして、奥へゆくにつれて、それぞれの本

にむきあう年齢がだんだん上つてゆくというふうで、入口から奥へ成長を追つてゆくようなんです。ですから、大人にとつては、入口から奥へ、じぶんの幼年からの記憶を、本の背にたどつてゆける店でもあるんです。

そういった魅力的な街の本屋さん、ニューヨークにはさらに古本屋さんをふくめておくあるんですけれども、いかにも本屋さんらしい本屋さんだなおもわせるのは、やはり五番街の真ん中にあるスクリブナー書店といえるかもしれません。もともと指折りの出版社として知られるスクリブナー社の本屋さんですが、スクリブナー社とアシニアム社のオフィスのある建物の、明るい表通りに面した一・二階が本屋さんで、けつしておおきな本屋さんじゃないし、むしろ古風な本屋さんといつていいとおもいますけれども、一步はいつて、なんというか気持ち引ききたてられて明るくなる、そんな店なんです。そういった明るい印象を誘われるというのは、店のつくりがそうなんです。一・二階といつても、二階が回廊式になっていて、中央は吹き抜けている。ですから、とても天井が高いうえに、表通りに面して全面が総ガラスですから、気持ちが開かれるんですね。



紀伊國屋書店 内部 (前川国男『一建築家の信条』晶文社刊所収)

二階が回廊式になった天井の高い本屋さんには、親しい記憶があるんです。かつて東京新宿の紀伊國屋書店がそうだった。現在のように高い建物になるまえは二階建てで、そのころは表通りにあった小さな犬の店の角を、両側に露店のような小店のつづく路地へ曲がって、ちょっとゆくと左側に別棟平屋の雑誌のラウンド・コーナーがあり、その奥が紀伊國屋パーラーで、路地の突きあたりが本屋さんでした。一階は確か土間だったとおぼえています。けっして暗い感じがなく、ゆったりとした雰囲気、店の左奥に二階へ上る石の手摺りのゆるい階段があり、そこを上るとギシギシきしむ板張りの二階の回廊から、店内がずつとみわたせた。前川国男さんの設計で、いかにも「本屋さん」への親しいおもいの活かされた、とても好きだった懐かしい本屋さんです。そのころは新宿へでたら、かならずといっていいほど足をむけた。その木造で土間で二階が板張りの回廊式だった旧紀伊國屋書店へかよって、街へいって本屋さんに寄るたのしみというものを、わたしはじぶんにおぼえたようにおもいます。

二階が回廊式になった天井の高い本屋さんには、どん

な本屋さんにもないような、ある独特の開かれた魅力がある。そうおもうんですが、それはけつしてただ個人的な好みだけでそうだということじゃなくて、じつをいうと、本というもののひとつ独特の感情というか、本というものがわたしたちにもたらす独特の感情的な光景というものに、深くかわつてゐるだろうというふうにおもうんですね。本というのは一冊だけでかんがえるなら、片手でもてるべつにどうということもないモノにすぎないんです。だけれども、それが数十冊、数百冊とあつまつてくると、だんだんと息がつまりるモノになつてくる。数千冊となれば、もうどうしようもなく圧倒的なモノになつてきます。たとえば、個人の家でかんがえてみて、本を家具としてかんがえたと、何十冊も重ねた本は、家具のうちでどんな家具よりおそらくもっとも重い家具であるということのは確かで、一どでも引越してみれば、たかがダンボール一杯の本でもどれほどギックリ腰の強敵か、まず誰でも認めざるをえない。

普通、本について語られる言葉というのは、ほとんどがまあその内容について費されるのが当然のごとくなんですけれども、それはほんとうは正確じゃないんです。

本とつきあうというのは、一人ひとりの日々においてかんがえるなら、ただその内容とだけつきあうということにつきてはならない。本はカスミじゃないので、体裁をもち、重さをもち、かさをもっている。そしてその数が一冊また一冊と増すうちに、どうしようもなくかさを増し、とんでもなく重さを増してくる。そういうモノです。しかもその一冊一冊が内容をもち、その一冊一冊がこちらに読書という行為を質す、そういうモノとして、どうしたつて気分的にもつよくかぶさつてくるモノです。ですから、本というものは、どこか避けがたく圧倒的な性質をもつたモノでもあるんだ、ということですね。

柳田国男の書齋について、娘さんの堀三千さんの書かれたことをおぼえています。四十畳ほどあるとても広い書齋だったんですが、その部屋の中ほどには土俵のように四本の白い柱が立っていて、柱のうえから四つずつの電灯が四方を明るく照らしていた。周囲の壁は天井まで本棚でおおわれ、そのなかに細長い窓が開いていて、本棚の上部に太い真鍮の棒が横にとおっており、頑丈な梯子が掛けてあつて、部屋の隅に机があつた。十年一日のごとく柳田国男はそこで黙々と原稿を書きつづけるん

ですが、そうした「砦」のような書齋をみて、知りあいの学者が「柳田さんの書齋はグロテスクなんだってね」といったそうです。四十畳の周囲が窓をのぞいてぜんぶ本棚になつてゐるのだから、威圧されるようにかんじられたのも無理はないと堀さんは記していますが、そうだろうとおもう。そんな広い部屋をもつてしても、天井までぎっしりの本という光景がもたらす異様に圧迫的な印象を、まぬがれることができない。本というモノには、そうした手におえぬ厄介なところが、どうしたつてある。

本屋さんというのは、それこそ本また本、本が山なす空間しかもてない場所なんです。山なす本がそこにあるというただそれだけでも、そこは氣分的にとつても圧迫される場所だし、そればかりか、山なす本のどの本もが、いつてみればまだ読んでいないのかとじつと問い質してゐるようにもみえてくる。ですから、棚のまえに黙つて立つて、一人みあげるばかりの棚にならんだ本をずつとみてゆくと、本に見下されてゐるというようなそんな落着かなさをおぼえる。うつかり本屋さんにはいろいろものなら、たちまち「視姦」されるようだったのは、開高健。目がレイプされるようで、本屋さんへはいった途

端にすぐくると背をむけてでてきたくなる。そんな気持ちをよくあらわした言いかたですが、本屋さんという場所が、手ぶらでやつてくる誰にとつても、本というモノが山と積まれたただ強迫的な空間でしかないとしたら、本屋さんがいかに寄道に誘うような親しい場所だなんて、ありうべくもないんです。本さんのありようが、もしそんなふう息のつまるような場所のままに閉ざされた空間しかもてないようならば、本さんへむくべき足が離れてつて、むしろ当然だろうとおもう。

山なす本というモノのもつ圧迫的なおつかぶさつてくるような雰囲気、どのように一人ひとりにとつて、氣の開けてゆくような親しみをもつた空間に変えてゆくことができるか。本さんのありように今日もとめられるのは、そうした一人ひとりにとつて親しく息のつける場所を、街のなかにどうやつてみずから回復するかということなんじゃないか。そうおもうのです。ニューヨークの街の本屋さんのもつ魅力というのは、本屋さんという場所がなによりそのような独特の開かれた場所として、街のなかに息づいてゐることからくるので、店のなかに遊歩道のあるようなバーンズ&ノーブル書店にして



も、あるいは、むしろせまい空間が明るい記憶のなかを通りぬける小径に変わったようなイーヨー・ブックスにしても、そこへゆくことがまずたのしい場所なんです。そういったありうべき開かれた場所としての「本屋さん」のありようのもっとも完成されたかたちが、スクリブナー書店や、あるいは旧紀伊國屋書店のような、回廊式の二階のある本屋さんだったろうと、わたしはそうおもっています。

けれども、都市化がすすみ、建物の高層化がすすみ、そのうえ出版の多様化や本の大量流通がすすむにつれて、そんな回廊式の二階のある本屋さんのような、気もちをゆつくり遊ばせることのできるような空間をつつみもった本屋さんのありようをまもるなんてことはほとんどむずかしくなってきた。回廊式の二階のある本屋さんなどは、いまではほとんど街から姿を消してしまった。時代のながれといってしまうばそれまでですが、それとともに本屋さんのありようというものから個性がうしなわれて、本屋さんという一人ひとりが気もちを寄せられる場所が、街のなかにどんどんうしなわれてきたようにおもえるということも、また事実です。しかし、むずか

しさを何でも時代のせいにして、「本屋さん」という街の個性が日々にみうしなわれるままであっていいとはいえないだろうとおもうんですね。風とおしのいい個性的な空間というものを、本屋さんのありようが今日もっていないということ。そのために本屋さんがずいぶんと気詰まりな場所になってしまっているということはないだろうかと、疑うんです。

梶井基次郎の『檸檬』をおもいだしますが、『檸檬』の舞台は本屋さんです。京都の丸善ですね。「私」がレモンを一口袂にいれて、京都の街を歩きまわって、丸善へはいつてゆく。けれども、ふかぶかと胸いっぱい新鮮なレモンの匂やかな空気を吸いこんで元氣だった「私」の「幸福な感情」は、丸善の本棚をまえにするうちに、だんだん逃げてつちやうんです。それで「私」は憂鬱になつてやたらと絵の本を引きぬいて、手あたり次第に重ねてゆくんですが、ふとおもいついて、その積み重ねた本の山のうえに、袂のレモンをとりだして置く。そうして、そのまま何くわぬ顔をして、すたすた外へでてきちゃう。「変にくすぐつたい気持が街の上の私を微笑ませた。丸善の棚へ黄金色に輝く恐ろしい爆弾を仕掛けて来た

奇怪な悪漢が私で、もう十分後にはあの丸善が美術の棚を中心として大爆発をするのだつたらどんなに面白いだらう。そう「私」はおもうんです。「私はこの想像を熱心に追求した。『さうしたらあの氣詰りな丸善も粉葉みじんだらう』」。

いうまでもなくこれは遠い大正時代の物語ですが、「ガチャガチャした色の諧調」と「埃つばさ」で「氣詰り」な本屋さんの光景というのは、むしろ今日の街の本屋さんの窮屈な光景にいつそう適つてるといつてよく、街へいつて本屋さんへ足をむけると、『檸檬』の「私」の想像をいまさらにともしたくなりましますけれども、ただ、『檸檬』の舞台となつた京都丸善は、いまはちよつとちがつて、じつをいうと、いまはそうした氣詰まりな雰圍氣からめずらしく自由な本屋さんの一つといつていい本屋さんかもしれません。コーヒー・コーナーをもつた本屋さんなんです。コーヒー・コーナーのある本屋さんというのは、東京の神保町富山房などもそうなんですが、どこか窮屈じゃない。本屋さんのなかに、こころ一つぶん落ち着ける場所があるんです。

かんがえてみれば、本屋さんというのは、本屋さんへ

ゆくがわからずれば、どこにも身のおきどころがないような場所なんですね。見つばなし、歩きつばなし、立ちつばなしで、腰が落ち着かないし、疲れてくるし、明るい蛍光灯の下でちいさな活字を追うから、目もどつと疲れてくる。本をもとめるというのは、まだ読んでない本をもとめることだから、どうしたつてためらいをもつた時間を必要とする。けれど、そうした時間を容れる余地というのが本屋さんのありようのなかにいつかなくなつちやつて、休むところなしというのがあたりまえのような本屋さんがいまはほとんどだけれど、コーヒー・コーナーをもつ本屋さんには、どういえばいいか、氣もちをあずけることのできる一人の時間、風とおしのいい空間がまだのこされています。

本屋さんには、風とおしのいい空間が欲しい。風とおしがいいというのは、一瞥できるといふことだとおもうんです。一瞥といふことを無視しちやつたところに、今日の本屋さんに共通する窮屈さがあるだろうとおもうんです。回廊式の二階のある本屋さんのもつ寛やかな印象は、山なす本の世界をざつと一瞥できるといふところにあつただろうとおもう。本の世界を全体として一瞥で

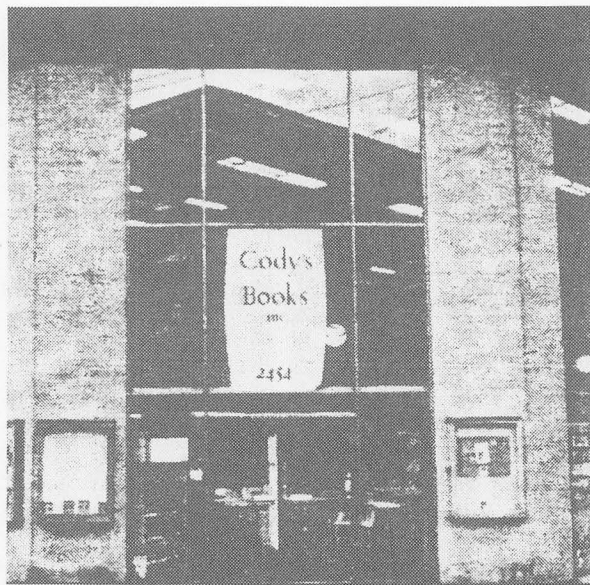
きる心理的な空間が本屋さんのなかにあるということが大事なので、そうあることがかならずしもそうと意識されないしかたで、本屋さんへゆくことが一人のたのしみとなるような自由な気分を日々に誘うんだ、ということをかかんがえるんです。本屋さんのコーヒー・コーナーにしてもそうで、壁によって遮られて画然と区切られているよりも、ガラス張りなんかでオープンなままであったほうがずっと親しみやすい空間をもたらすのもそのためで、いい本屋さんというのは、本の世界を一瞥できる風とおしのいい空間を、そのありようのうちにかならずもっています。

ユニークなのは群馬前橋の煥乎堂という本屋さんで、白井晟一さんの設計になる本屋さんなんですが、店のほぼまんやかに二階へ上る螺旋階段があり、そのゆったりとした螺旋階段の上り下りがそのまま自由な一瞥の空間を、本屋さんのありようのなかにたもっている。本を見おろすというとおかしな言いかたですが、本の世界が目線の下にくるような空間をどうやってつくって、山なす本というモノによってどうしても心理的に圧迫されて閉ざされてしまいやすい本屋さんの内部の空間に、風とおし

のいい感覚をたもってゆくようにできるかということですね。北アメリカの大学のコープの本屋さんにはいい本屋さんがすくなくありませんが、シアトルのワシントン大学のコープの本屋さんもユニークで、大学のおきな建物の一階ぜんぶをどでかいワン・フロアだけの書店が占める。ワン・フロアは一瞥の空間をもっとももちにくいのですが、ここは建物中央の重たいドアを押してはいってゆくと、通路の左右が書店で、膨大な本の詰まった本棚のつづくその左右のどちらも通路より五段ぐらいゆるやかな階段を下りたところを床にしているので、広い通路がそのまま中央にいわば芝居の花道のように位置し、そこから全体がひろびろと目にはいつてくるので、圧倒されるその広さが、逆に明るい印象をひろげるというふうなんです。

そんなことはほんとうはどうでもいいことじゃないか、本屋さんには本があるかどうかだけが問題じゃないのかとされがちですけれども、しかしちがうんです。じぶんでそうと気づかずに、親しみある空間をもたない本屋さんへは、いつか足をむけなくなってしまう。街にある本屋さんのありよう一つで、わたしたちの本とのつき

あいは、長い目でみれば、おもわずしてひどくちがってくる。街の本屋さんのありようでかんがえたいもう一つのことは、本屋さんがその街にもつ外部の光景です。ファサード（前景）ということです。独特のファサードをもつ本屋さんを目にすることが、いまはあまりないんで



コーディ書店（パークレー）

すね。日本の場合、マガジン・ストアとブック・ストアが別じゃないので、店頭のほとんどを雑誌が占めてしまうために、いつかどの本屋さんもおなじような表情しかもたなくなっちゃった。街の本屋さんのありようが、ファサードというものをもたない。ファサードというのは、本屋さんがなう街の個性であって、本屋さんがその街にもつ街の顔なんです。

サンフランシスコ郊外の大学町であるパークレー。そのカリフォルニア大学バークレー校の正門前のテレグラフ通りというのは、本屋さんがずつとづく北アメリカの街でもめずらしい通りですが、どの本屋さんもそれぞれに個性をもっていて、それぞれの店のつくり、かまえ、雰囲気それぞれにちがう。シェイクスピアやヴァージニア・ウルフのTシャツを売ってる本屋さんもあれば、不思議の国の兎をプリントしたサイクリストのためのブック・ザックを頒けてくれる本屋さんもある。中二階のある本屋さんがあれば、地下室のある本屋さんがあり、総ガラスの本屋さんもあれば、入り組んだ迷路のような本屋さんもあって、独特の活気ある界限をなしてるんですが、どの本屋さんも人の顔がちがうようにそれぞれに



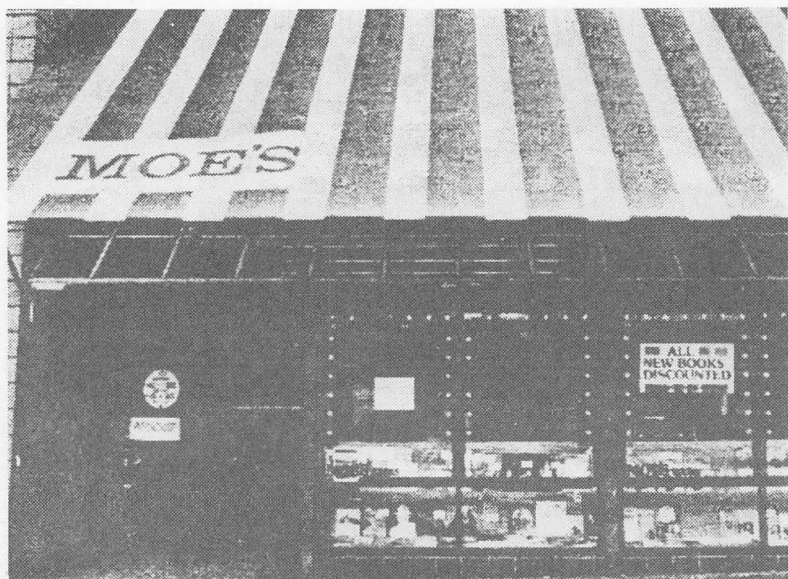
ロゴス書店（パークレー）

じぶんの顔をもっていて、それぞれのファサードはまったくちがう。パークレーのテレグラフィ通りを歩いていつもおもうのは、本屋さんのファサードというのはそのままそれぞれの本屋さんそのものだということですね。

そこへゆくことがたのしい。そのような「場所」とし

ての魅力をもった本屋さんのありかたですね。本屋さんが街の日々にうしなつてならないのは、そうした気もちを引っぱるような「場所」としての魅力、その街の個性というものをそこに確かにかんじさせる魅力なんだ、とおもう。今日、たとえば本屋さんのおおくは、老人がいつてたのしい場所とはいえない。老人にとつてだけじゃないかもしれない。新宿紀伊國屋へゆくと、いつでも階段にぐつたりと腰を下ろしてる人をみかけます。本屋さんへゆくと、とにかくひどくくたびれてしまう。街へいつて自然に足がむくというような、自由な時間、こころを遊ばせる空間というものを、一人ひとりの街の日々に生き生きと差し込めることができるような本屋さんの親しいありようというのが、どうしてもつとたずねられないのかとおもうんです。

デザイン。本屋さんのありようのなかで、ようやくにして色彩がたいせつにされるようになってきましたけれども、しかし、たとえば本棚についてはどうか。本棚がいま、街の本屋さんにあつていつたいどれほどふさわしい新しいかたちをもちえてるだろうか。インダストリアル・デザイナーのレイモンド・ローウイの『口紅から機



モウ書店（パークレー）

関車まで』という本に、書店のためにかんがえられた放射線型の本棚というのができてきます。背文字を読みやすくする工夫から生まれたその本棚がつくられたのは一九四〇年代ですが、試みといってもほとんどそれぐらいで、たとえば椅子のデザインが目をみはらせるたのしい魅力をもった光景を日々につくりだしてきたのとはちがって、本をめぐる環境がどんなにいちじるしく変わってきても、本棚のデザインといったものは、ハタキパタパタのころからずっと、どこかにさっぱりわすれられてきたままのようにみえます。

わたしたちの日々における本屋さんのありかたということ、本屋さんというのはわたしたちにとってどんな場所なのかということをかんがえるとき、興味ひかれるのは、おなじ北アメリカ、ボストンの二つの本屋さんの場合です。

一つは、ボストン大学ブックスストアで、二十世紀初期の建築様式を活かして一九八四年につくられた六階建のおおきな本屋さんなんですが、表通りからはいつてゆくと、まずローズカラーの大理石を通路に敷きつめた明るいゆつたりとしたスペースにみちびかれる。だけれども、



ボストン大学ブックストア 専門書コーナーのセンター・スペース

本屋さんなのに、みわたしてそのひろびろとしたどこにも、本はないんです。膨大な本はもちろん地下と階上の各階におさめられてるんですが、本屋さんにはいつて、まずどこにも本のない空間をとおってゆくことで、本というモノの世界の避けられない圧迫的な雰囲気について、本屋さんによってくる誰でもが、そのまま自由に開かれた感覚をもちこんでゆけるようにしている。本屋さんという本というモノしかない世界に、まったく本のないひろびろとしたオープン・スペースを置いて、どうしても閉ざされやすい本屋さんの空間を開かれた空間にしようということから、たとえば、学術書や専門書といったまあしんどい本をそろえる階なんかだと、さらにクッションのあるベンチの置かれた本のないセンター・スペースをまんなかにおき、そうした空白の空間に面して、ぎっしり本の詰まったそれぞれに独立した売場の入口がある、というふうなんです。休んで、本の世界を一瞥できる、風とおしのいい空間を意図してる。本屋さんの設計ならこの人とされるケン・ホワイトの手がけた本屋さんですが、階ごとに、またセクションごとに、独立した空間をもつ売場をつくって、アップローチもさまざまなら、





ハーヴァード・ブックストア・カフェのアウトドア・カフェ

天井も壁も床も、デザインと色彩ががらりと異なっており、本棚の高さや配置もちがえば、平台にも工夫がこらされてるといった具合であって、なかには、大理石のテーブルのある落ち着いたおおきなコーヒー・ハウスがある。一つの階で三百坪弱ほど。高級百貨店ブルーミングデールをおもわせるというので、大学の頭文字をとって「B.U. mingdale's」と紳名されるんですが、そういったありやうというのは、「一人ひとりの本への集中心をたかめたい」とするこの本屋さんのもつ姿勢を、そのままにあらわしている。

ボストン大学ブックストアのそうした姿勢というのは、ほとんどスーパーマーケット化してきてしまったために、一人ひとりの本への愛着というものはぐくむなんてできなくなってしまった、北アメリカの今日に共通する本屋さんのありかたにたいする反省から生まれてきた。そうおもうんですが、ボストンのもう一つの本屋さん、ハーヴァード・ブックストア・カフェの場合は、名のとおりカフェにして本屋さんで、本屋さんであってまたカフェであるという、ほかにない独特のありやうをもった本屋さんなんです。この本屋さんもまた、やつぱ



り今日の本屋さんのありようにたいする疑いをとおして  
できてたといつていい本屋さんですね。

ボストンの住宅地域にあつて、書店のほうは三五坪ほどのスペースに一万二千冊あまりの本をおき、オーク材でつくられた高い本棚は自由にうごかせるスライド式をとつていて、カフェのほうもほとんど変わらない広さで、九十席あつて、朝食はセルフ・サーヴィス、夜はディナーということ、朝の八時から夜の十一時まで店を開ける。春と夏には、さらにアウトドア・カフェをひらく。もちろんカフェから書店へ食べもの飲みものをもちこむことはできないけれども、会計は書店とカフェの境いめの一つです。この本屋さんのアド・フレイズが、これがたのしいんですが、この本屋さんのもつ魅力をよくつたえていて、「夕食に、知性を。メニューが、ハーヴァード・ブックストア・カフェのベストセラーです」というんです。一九八〇年にできた本屋さんですが、どうしてこういったかたちの本屋さんをはじめたかについて、ただの書店付属のレストランを、あるいはただのレストラン付属の本屋さんをやろうだなんてかんがえなかった、といひます。ただ誰もが腰を落ち着けてゆつくりできる

本屋さんをやりたかつたんだ、と。その姿勢をちつともくずさなかつたところに、たぶんハーヴァード・ブックストア・カフェがその街の人びとに親しまれてきた秘密があるんだ、とおもえる。

本屋さんというのは、一つの店、ちいさな店舗、どきまわりの見世物小屋、神殿、エスキモーの雪小屋、劇場の舞台裏、蠟人形と夢の博物館、読書サロン、そして本のあるただの本屋さん。そこへ本の友である人たちがやつてきて、ばらばらめくつてみたり、買つたり、その場で読む人もいる場所。温室とすれば、まったく自由に、敵意もあらわに、なにかもごちゃまぜに、入りくみ絡みあつて、微笑をうかべながら、感動にうたれながら、あるいは激越に、さまざまな思想が花とひらき、交換され、散りぢりになり、萎れてゆく場所。駅の待合室とすれば、待つ部屋、そしてそこからでゆく部屋、ひどく変わった人たち、遠くからきた人たち、ここの人たち、その辺の人たち、よその人たちが、このうえなく複雑な世界からこのうえなくさりげなくやつてきてはすれちがい、地獄の一季節を、あるいはまたただいぐばくかの時を過ごす場所。そして麗しい文字たちがいびきをかいて

いて、たとえそれを逆撫でに愛撫してもゆるされる場所。本屋さんとは、奇妙な名まえが、ごく単純な言葉にまじって突然あらわれる場所。本たちが、本屋さんにやってくる誰にも、善良な悪魔のようにほほえみをかえす場所。大好きだった本屋さんの思い出を語って、街の本屋さんについてそういったのは、詩人のジャック・プレヴェールでした。わたしが街の本屋さんへゆくたびに、いつもおもいだすのは、批評家のヴァルター・ペンヤミンの遺した短い卓抜な警句です。本屋さんの本について、ペンヤミンはこんなふうにいって。「本と娼婦は、とかく、店にでるときは、背をむけたがる」。

本屋さんというのは、つまるところわたしたちの一人ひとりととって、街に「じぶんの本屋さん」といいうるような気もちをたずさえてゆける、そんな本屋さんがあるかどうかなんだとおもうんですね。今日わたしたちはどんなふうに、めいめいの日々に「じぶんの本屋さん」といえる本屋さんをもてるだろうかということを、かんがえるんです。もしいま本屋さんが魅力ある場所としてじゅうぶんにわたしたちの日々に息づいてるとはいえないようなら、そのことはそれだけ、わたしたちがじぶ

んたちの日々にふさわしい本屋さんのありようというものをみうしなつて、しかもそこへゆくことがたのしいといえるような本屋さんのありようというのを、まだまだみつけれないでいるということを、なにより語っているんじゃないでしょうか。

本屋さんのありようには、わたしたちが街の日々の光景のうちにもつ、もしそういつてよければ「文化」のかたちがあるだろうとおもう。好きな本屋さんのない街は、さびしい。さびしいというのは、べつに胸がさびしいということじゃない。わたしたちが日々にもつ賑やかな「文化」がさびしいということです。（おわり）

これは昨年五月十二日静岡県伊東市で行われた人文会と紀伊國屋書店の合同研修会において話したことをもとに、その後の資料をくわえ、稿を起したものです。

長田弘（おさだ ひろし） 一九三九年福島市生まれ。  
早稲田大学第一文学部卒業。詩人。著書に、『アウシュ  
ヴィッツへの旅』（中公新書）、『私の二十世紀書店』（中  
公新書・毎日出版文化賞）、『詩人であること』（岩波書  
店）、『二人称で語る権利』（人文書院）、『風のある生活』  
（講談社）、『深呼吸の必要』（晶文社）など。

## ニューエイジの中核・トランスパーソナル

春秋社 岡野守也

読書界（というものがあるとして）にとつて、一九八四年は、ポスト構造主義、記号論、空海などでにぎわい、さらに、秋の筑波大学のシンポジウムをきっかけに、ニューサイエンスでにぎわった一年であつた。新聞雑誌で目にするかぎり、否定的ないし、懐疑的発言も多いにもかかわらず、話題としては、今のところニューサイエンスはなかなか優勢で、書物の売れ行きもかなり好調のようであるが、この先どうなるのだろうか。アカデミックなサイエンスの世界の組み替えを迫るような影響を与えることになるのか、それとも一種の「コスモロジー」で

終わるのか。個々の成果はともかく、その「全体論的（ホリスティック）」なものの見方に方向としては賛成、どちらかといえばニューサイエンス歓迎派としては、興味津々というところである。

そんな矢先、筑波のシンポジウムの仕掛け人の一人、京セラの稲盛社長が組織委員長となつて、四月末、京都で、「科学と伝統の融和」をテーマに、「トランスパーソナル国際学会」が開催される。この文を書いている時点では、その影響がどのくらいか、まだ予想が難しいが、ともかく、出席者は、元宇宙飛行士のラッセル・シュワ

イカート、サナトロジー（死の研究）のエリザベス・キ  
ュブラー・ロス、ユング派で、箱庭療法の創始者ドラ・カ  
ルフ、生物学・人工知能研究のフランシスコ・ヴァレラ、  
心理学者のスタニスラフ・グロフなど、多彩で魅力的な  
顔ぶれが集まるし、日本側は、河合隼雄、山口昌男など  
のほか、西谷啓治、玉城康四郎など仏教界の大家の名も  
見える。

ところで、かんじんの「トランスパーソナル」とは何  
なのか、日本ではまだほとんど知られていないようだ。

トランスパーソナル心理学は、一九六〇年代の終わり、  
アメリカ心理学のいわば、「第四の勢力」として登場した  
ものである。トランスパーソナル宣言とでもいうべき代  
表的論集『エゴを超えて』（Beyond Ego, 1980）によ  
ると、「トランスパーソナル心理学の関心は、心理学的な探  
求の分野を最高の健康・健全さの研究を含むところまで  
拡大することにある。それは、意識状態の広大な領域を  
経験する能力があり、その中のあるものは、エゴやパー  
ソナリティを超えたアイデンティティにまで及ぶという  
ことを認める。」という。端的にいつてしまえば、へ人間  
と宇宙との本質的一体性の意識を研究、かつ実修する

こと、つまり、個を超えるということが、トランスパー  
ソナル心理学の志向である。そういう点では非常に宗教  
的・神秘主義的でありながら、欧米の心理学の理論的・  
臨床的伝統をしっかりと踏まえており、さらにもう一方  
では現代科学の先端とも深くかわわっているところに、  
トランスパーソナルの特徴がある。

この十数年間に急速な成長、発展を遂げつつある、ア  
メリカのニューエイジの潮流のうち、日本では、いわゆ  
るニューエイジ・サイエンスが先に紹介され、話題にな  
っているわけだが、むしろ、その潮流の中核は、トラン  
スパーソナル心理学であるといつてまちがいない。ニュ  
ーサイエンスが、アカデミズムの世界でもサイエンスと  
して認められるようになるかどうかは、まだ未知数だが、  
トランスパーソナルは、その理論の本格的体系的性、臨床・  
実験的データの豊富さなどの点から見て、少なくとも心  
理学の一学派としては定着するのではないかと思われ  
る。

トランスパーソナルの潮流のひとりで、すでに『タオ  
自然学』『ターニング・ポイント』で知られるフリッツォ  
フ・カプラは、五〇年代中頃まで、アメリカのアカデミ

ツクな心理学の主流は、行動主義と精神分析によって占められており、そのどちらも、いつさいの現象を原子の組合せと相互作用として理解してしまおうとした近代物理学をモデルとしており、《科学的還元主義》をパラダイムとしていると批判する。行動主義者は、心を神経生理学的な《刺激》と《反応》という要素の組合せ・相互作用に、還元しようとする《生理還元主義》であり、精神分析家は、心を《自我》《超自我》《エス》などの要素の組合せ・相互作用に還元しようとする《本能還元主義》の傾向にあったのである（F・カブラ『ターニング・ポイント』「工作舎、参照」）。しかし、少なくとも現代物理学では、還元主義のパラダイムは破綻し、克服されようとしているのであり、このパラダイム・シフトは他の様々

な分野でも要請され、起こりつつあるという。スタニスラフ・グロフ、アンソニー・スティッチ、アブラハム・マズローなどは、そうしたいわば反還元主義の動きとして、まず、六〇年代、人間の心を、反射や本能に還元してしまうことに反対し、人間の心の十全な探求には、価値、自由、意志、自己実現などの問題を考慮に入れることが必要だと主張する、人間性心理学を發展させ、これを「第三の勢力」と名づけた。

ところが、人間性心理学者たちは、ただパーソナルな問題を探究するにとどまらず、すでにあるタイプの知識人やヒッピーたちのなかでは一種の知的ファッションになっていた禅や、中国軍のチベット侵入によって海外亡命を余儀なくさせられ、やがてアメリカ西海岸へとやつ

# カウンセリングを語る〈上・下〉

河合隼雄

カウンセリング研修講座で行った講演の記録。注意点を今後  
の展望などで著者の柔軟な考え方を示した ■ 各一〇〇〇円

【好評既刊】日本人とアイデンティティ 心理療法師の眼  
■ 一三〇〇円

子どもと生きる

河合隼雄編 子育ての「より」も  
むしろ子どもと共に生きる道  
を考えたい。様々な分野の専  
門家がユニークな意見を展開  
伊谷純一郎／今江祥智／河合  
雅雄／樋口和彦／山中康裕他  
■ 一三〇〇円

創元社

大阪市北区西天満1-4-2  
東京都新宿区山吹町77

てきたチベット密教の僧たち、東南アジアからやってきた上座部仏教の僧たち、インドからやってきたヴェーダの哲学者やヨーガ行者たち、あるいはイスラム神秘主義・スーフィーの流れにあるグルジェフのグループなどと、理論的にだけでなく、臨床実践的にも、深い交流を行ない、さらに西欧の神秘主義の再評価、再発見にも到った。そして、「人間性心理学者は、神秘体験、超越性、エクスタシー、宇宙意識、瞑想、個人間および種間の共働作用など、それまで無視されてきた心理学の諸領域に関心を示し、これらの関心が、ついに新しい運動——トランスパーソナル心理学——の出現へと結晶したのである。」(『古代の英知と現代科学』序言、International Transpersonal Association 一九八二年国際会議報告。平河出版社より刊行予定。大野純一氏の訳稿による。)といわれる。人間性心理学の代表的な存在が、同時にトランスパーソナル心理学の創始者でもあるということのなかには、アメリカならではの自由さが感じられて、興味深い。

こうした探究を「トランスパーソナル」と名づけたのは、マズローとステイツチであり、ステイツチは、『人間

性心理学会誌』の編集者であると同時に、六九年、『トランスパーソナル心理学会誌』を創刊した編集者でもあるという。

学会誌の創刊と同時に、「トランスパーソナル心理学会誌」(Association of Transpersonal Psychology) および「カリフォルニア・トランスパーソナル心理学会」(California Institute of Transpersonal Psychology) が設立され、多岐にわたる活発な活動が続けられているが、そこで特徴的なことは、トランスパーソナル心理学は、それまでの心理学の三大潮流を否定したり、単に東洋思想と混ぜ合せようとするものではなく、止揚・統合することを試みているということである。そこでは、欧米科学的な、仮説—実験—証明といった方法とプロセスは決して軽視されていない。さらには、脳生理学や人工知能との比較研究、様々な臨床実験、セラピーのデータも豊富に提出されている。

なかでも、トランスパーソナルの代表的理論家とみなされる、ケン・ウィルバーが提出した理論モデルは、非常に体系的かつ説得的である。ウィルバーは、心の諸層を電磁波のスペクトルにたとえ、様々な心理学説は、心

の諸スペクトルをそれぞれに捉えているものであり、それぞれが焦点を当てているスペクトルに関するかぎりは、それぞれに正しいが、どの理論も全スペクトルを捉えているのではないとして、様々な宗教や心理学の心に関する学説をそれぞれの固有の正しさにおいて読み取る視点・全スペクトルを捉えるための理論モデルを提出している（本格的展開は、『意識のスペクトル』春秋社 参照）。

ウィルバーは、さらに『アートマン・プロジェクト』（春秋社より今秋刊行予定）で、誕生から自我の確立までだけでなく、自我から自我を超えていく人間の全ライフサイクルを明らかにし、『アップ・フロム・エデン』では、さらにトランスパーソナル的な人類進化論を提出している。

ウィルバーの仕事はきわめて理論的なものだが、その他、トランスパーソナル心理学では、変性意識がどのような生理的变化をもたらすかの生理学的研究、瞑想の治療上の効果に関する医学的研究など、多くのすぐれた実証的研究も行なわれている。たとえば、メニンジャー財団 (Menninger Foundation) でのスタニスラフ・グロフ

のLSDの精神医学的研究、グリーン夫妻のバイオフィードバックの研究、インド、バンガロールの精神的健康研究所 (Institute of Mental Health) におけるヨーガの生理学的研究、ハーバードのダニエル・ブラウンによる、知覚感度に及ぼす瞑想の効果の研究、さらに、ノエティック科学研究所 (Institute of Noetic Science) での、人間の超常能力、最適健康および福祉の研究、および、意識訓練 (consciousness disciplines) と呼ばれる、東洋の瞑想的訓練の効果に関する研究、社会科学者デュアン・エルギンによる、意識訓練の実践がライフスタイル・価値観の変化をもたらすことを実証した社会学的研究、などがある。

わたしは、こうした、西洋と東洋の出会いが起る場所は、条件としては日本しかないと考えていたのだが、むしろそれを可能にしたのは、アメリカ・カリフォルニアの、伝統をもたない軽さ、自由な空気だったようである。近代主義の実験場ともいうべきところだからこそ、近代主義の克服も、開かれた精神によつて急速に進められるということなのだろう。もちろん、あらゆる創造の時期にありがちな、混沌・玉石混交は見られるし、それ

を恐れないアメリカ的な身軽さを「輕薄」と見る向きもあるだろうが、そこに生まれつつあるもののなかでもっとも良質な部分は、「西洋人にほんとうに仏教がわかるのか」といった、本家意識・ひとりよがりは、捨ててかからなければならぬほどの質に到っているようだ。しかも、アメリカ的合理精神によって精製された「神秘主義」ならば、かえって現代日本の知識人の宗教への偏見を癒すことができるという効果もあるかもしれない。

さて、こうした研究と並行して、一九七二年以降、トランスパーソナル心理学の国際的会合は、回を重ねられるにつれて、内外に非常に多くの賛同者を獲得し、やがて、一九七八年の第四回国際会議で、「国際トランスパーソナル学会」(International Transpersonal Association ≡ ITA)の発足が決議された。

初代会長、スタニスラフ・グロフは、トランスパーソナルのパラダイムにもとづきながら、ITAを心理学分野のみの学会としないで、さらに非常に学際的な性格の学会へと拡大していった。

『トランスパーソナル心理学会誌』の元編集者であり、現在カリフォルニア・トランスパーソナル心理学研究所

の教授のボーンによれば、「トランスパーソナル的展望は、メタ展望であり、あらゆる異なった展望から学ぼうとする試みである。それは、新しい信念体系や新しい形而上学を押しつける試みではなく、むしろ既存の様々な世界観の間の関係を見ることによって、われわれの世界において真に変容的でありうる何ものかを創造するための試みである」(『古代の英知と現代科学』)という。

こうした理念に賛同する、多くの物理学者(たとえば、カブラ、情報・システム理論家(たとえば、グリーン夫妻)、生物学者(たとえば、フランシスコ・ヴァレラ)、サナトロジー(死学)研究者(たとえば、キューブラー・ロス)、哲学者(たとえば、グレゴリー・ベイトソン)、神学者、人類学者、芸術家など、専門を異にする様々な人々が、ITAに参加し、トランスパーソナルの潮流は、アメリカではもはや無視しがたい勢力になりつつあるようだ。

トランスパーソナルの全体的志向は、次のボーンの言葉に要約されている。分かりやすくするために、原文にはない改行を加えて引用しよう。



IT Aは、様々な学問分野間の溝を埋め、人間性の包括的、統合的イメージを形成しようとする努力を支持する。

IT Aは、これまで異種の、または矛盾しあっていたアプローチを総合し、精神と肉体の結合を強調し、そして人間存在をその個人間関係的、社会的、生態学のおよび宇宙的文脈において記述するところの、新たな科学的パラダイムの開発を促進する。

リアリティーは、いかなる科学的理論またはイデオロギー体系よりももつとはるかに複雑であり、また既存のパラダイムへの硬直的固執によつて妨げられることのない、偏見なき世界探求を維持することが絶対的に必須であるという認識に基づいて、IT Aは一見異種のアプローチ——神秘主義的伝統と量子・相対論的物理学、西洋のプラグマティズムと東洋の諸哲学、古代の知恵と現代科学、または現代医学と未開人の治療術——を和解および統合させる試みを支持する。

IT Aは新しい諸原理と概念的枠組を、実際に、セラピー、教育、経済、生態学、政治、宗教、芸術、および人間生活のその他の分野へ適用することを奨励する。

IT Aは、内面生活、人間的体験の性質(quality)、自己実現、および意識の進化を強調する。

IT Aの諸活動は、敵対性、競争および自己主張に対して、相補性、共働および協力を強調し、リアリティーの孤立した領域への選別的集中よりはむしろ、全体論的アプローチを、そして操作的な干渉とコントロールに対して、自然の諸過程と宇宙のサイクルへの調和的同調を強調する。(前掲書)

IT Aの国際会議は、そうした志向で、七九年ボストンの第一回以来、八回重ねられており、今年京都で行なわれる会議は、第九回であるという。

日本では、たいていのがアメリカに十年遅れて起こるというが、それにしても、欧米の流行に敏感な輸入学者は非常に多いにもかかわらず、トランスパーソナル心理学の紹介が十年以上遅れてしまったというのは、なぜだろうか。

①日本では、アメリカのように人種の問題が大きなく、様々な思想をどう統合するかという問題は、抽象的にはあつても実際にはそれほど差し迫ったものとは感じ

られていない、②日本の精神状況は、まだフロイド、ユングなどの分析で捉えられるレベルの問題しか現われていない、すなわち、心の深いレベルの荒廃はまだ食い止められており、宇宙にまで到るアイデンティティが深刻に追求されるというレベルにはない、③東洋思想、とりわけ仏教にかんする日本の本家意識もわざわざいして、カリフォルニアの東洋宗教に注目した学者が少ない、④七〇年前後の大学闘争の後遺症が、日本におけるニュー・エイジの登場を遅れさせてしまった（日本では、アメリカのニュー・エイジと同世代の登場は遅く、それより若い世代が、ニューアカデミズムと呼ばれて、先にジャーナリズムの世界に登場した）などの理由があげられるかもしれない。

ともかく、トランスパーソナルの潮流が、かなり知的刺激に満ちたものであることはまちがいないが、日本という国は、様々な思想がいつもほどほどのなわばりをもちながらうまくへ棲み分けゝる、へ八百万の神々ゝの国なのであって、諸学問の統合はついに起こらず、トランスパーソナルもまた、ひとつの流行神の渡来と土着のプロセスを経て、風土化、風化していかないともかぎらない

と思う。

そうではあるにしても、トランスパーソナルが、マルクス主義か実存主義か↓構造主義↓ポスト構造主義という戦後思想の流れの行くべき方向、それらの思想が成し遂げえなかった課題↓人類的平和と生態系的調和を目指す、ポスト・モダンへの基本的潮流（あるいはそのひとつ）となることだけは、確実だと思われる。

### トランスパーソナルの基本文献

●トランスパーソナルをどう位置づけるか

アーサー・ケストラー編『還元主義を超えて』工作舎  
ケン・ウィルバー編『空像としての世界』青土社

F・カプラ『ターニング・ポイント』工作舎

マリリン・ファアガソン『アクエリアン革命』実業之日本社

J・リツプナック『ネット・ワーキング』プレジデント社

ケニス・ケニストン『青年の異義申し立て』東京創元社  
『メディテーション』7号「カリフォルニア精神文化論」

平河出版社、『アーガマ』特集「アメリカの新宗教」(吉福伸逸) 阿含宗出版局

●トランスパーソナル心理学

ケン・ウィルバー『意識のスペクトル』上、春秋社 『構造としての神』 青土社

J・C・ピアス『マジカル・チャイルド』日本教文社

J・ウェルウッド編『東洋と西洋の心理学』ナツメ社

S・&C・グロフ『魂の航海術』平凡社

A・マズロー『可能性の心理学』川島書店、『人間性の心理学』産業能率短大出版部、『完全なる人間』『創造的人間』『人間性の最高価値』誠信書房

C・R・ロジャーズ『人間の潜在力』『エンカウンターグループ』創元社

W・ジェイムズ『宗教経験の諸相』日本教文社

C・G・ユング『東洋的瞑想の心理学』創元社、『人間と象徴』上下、河出書房新社、『心理学と錬金術』I II、人文書院

E・ノイマン『意識の起源』上下、紀伊国屋書店

ロロ・メイ『愛と意志』『失われし自我をもとめて』『創

造への勇氣』『不安の人間学』『わが内なる暴力』『実存』誠信書房

M・ボス『東洋の英知と西欧の心理療法』『心身医学入門』みず書房

T・ローザク『意識の進化と神秘主義』紀伊国屋書店

E・キュブラー・ロス『死ぬ瞬間』読売新聞社

R・D・ラマニシャイン『科学からメタファーへー映像としての心理的世界』誠信書房

G・レオナード『サイレント・パルス』工作舎

N・ブラウン『エロスとタナトス』竹内書店新社

B・B・ブラウン『スーパーマインドー心は脳を超える』

『心と身体対話ーバイオフィードバックの世界』上下、『心と身体の医療ーストレス病とバイオフィードバック』上下、紀伊国屋書店

C・ウィルソン『フランケンシュタインの城ー意識のメ

カニズム』『右脳の冒険ー内宇宙への道』平河出版社

A・オイル『現代アメリカ健康学』日本教文社

A・ワイル『人はなぜ治るのか』

河合隼雄『中空構造日本の深層』中央公論、『ユング心理学入門』培風館、『影の現象学』青土社

樋口和彦『ユング心理学の世界』創元社

●トランスパーソナルと東洋宗教

ルーミー『語録』岩波書店

ラーマ・クリシュナ『人類の知的遺産 ラーマ・クリシュナ』講談社

おおよまのり編訳『ミラレパの十万歌』めろくまーる社(発売)

C・G・ユング他『黄金の華の秘密』人文書院

おおよまのり訳『チベットの死者の書』講談社

クリシュナムルティ『生と覚醒のコメンタリー』1〜4、春秋社

タータン・トゥルク『心の姿勢』たま出版

ラマナ・マハリシ『ラマナ・マハリシの教え』めろくまーる社

ラム・ダス『覚醒への旅』平河出版社

K・R・スピース『グルジェフ・ワーク』平河出版社

チョーギヤム・トゥルンパ『タントラへの道』、『タントラ』狂気の智慧』めろくまーる社

マハリン・マヘッシ・ヨギ『超越冥想入門』読売新聞社

鈴木大拙『東洋の心』春秋社

井筒俊彦『意識と本質』岩波書店

西谷啓治『宗教とは何か』創文社

久松真一『東洋的無』理想社

玉城康四郎『冥想と思索』春秋社

佐保田鶴治『ヨガ根本経典』平河出版社

八木誠一『仏教とキリスト教の接点』法蔵館、『自我の虚構と宗教』春秋社、『自我の行方』春秋社

松岡正剛『空海の夢』春秋社

●トランスパーソナルの思想家たち

G・ベイトソン『精神と自然』思索社

ハクスレー『知覚の扉・天国と地獄』河出書房新社

ケストラー『ホロン革命』工作舎

マクルーハン『マクルーハン理論』サイマル出版会

カルロス・カスターネダ『未知の次元』講談社

バックミンスター・フラウ『テトラスクロール』めろくまーる社、『バックミンスター・フラウのダイマキシオン』世界』鹿島出版会

スワミ・プレム・プラブダ『地球感覚』工作舎

●トランスパーソナルとニュー・サイエンス

K・プリブラム『脳の言語』誠信書房

D・ボーム『全体と部分』工作舎

フォン・ベルタランフイー『一般システム理論』『生命—有機体の考察』みずす書房

プリゴジヌ『構造・安定性・ゆらぎ』みずす書房

ジム・ラブロック『地球生命圏—ガイアの科学』工作舎  
ライアル・ワトソン『生命潮流』『未知の贈りもの』工作舎

H・ヘンダーソン『エントロピーの経済学』ダイヤモンド社

●トランスパーソナル志向の文学

H・ヘッセ『シッダルタ』新潮社

リチャード・バック『カモメのジョナサン』新潮社

ミシヨー『荒れ騒ぐ無限』青土社

エマーソン『精神について』日本教文社

H・D・ソロー『森の生活』荒竹出版

ジョン・ケージ『小鳥たちのために』青土社

ギンズバーク『ギンズバーク詩集』思潮社

K・キージー『郭公の巣』富山房

フリーマンダイソン『宇宙船とカメラ』工作舎

M・セラノ『ヘルメティック・サークル』みずす書房

●トランスパーソナルの源流

ベルグソン『創造的進化』『道徳と宗教の二源泉』白水社

ヴィトゲンシュタイン『哲学的考察』大修館

ホワイトヘッド『過程と実在』松頼社

テイヤール・ド・シャルダン『宇宙のなかの神の場』『自然のなかの人間の位置』春秋社、『現象としての人間』みずす書房

マルティン・ブーバー『我と汝・対話』みずす書房、『ユートピアの途』理想社

ハイゼンベルグ『自然科学的世界像』『部分と全体』みずす書房、『地上と星の中のエネルギー』海鳴社

E・シュレディンガー『シュレディンガー選集1』共立

出版社、『生命とは何か』岩波書店

T・クーン『科学革命の構造』みずす書房

M・ポランニー『暗黙知の次元』紀伊國屋書店

## 特約店の選定を終えて

### ■調査企画委員会■

人文会が制定する特約店並びに準特約店をこの度選定させていただきました。

この制度は、2年に一度行なわれるもので今回で丁度10年目を迎え6回目の更改に当たります。

選定の基準は、次の通りですが、前回調査時よりも会員版元が2社増えて、20社が22社になっておりますので、常備社数、冊数、年間売り上げ冊数とも、その比率に準じて基準を改訂しております。

### ①特約店について

- (イ)会員22社中13社以上と常備契約をされていること。
- (ロ)会員社の人文図書を一、一〇〇冊以上展示されていること。

ること。

- (イ)会員社の人文図書を年間三、三〇〇冊以上販売されていること

### ②準特約店について

- (イ)会員社22社中10社以上と常備契約をされていること。

- (ロ)会員社の人文図書を七七〇冊以上展示するか、または年間二、二〇〇冊以上販売されていること。

選定の結果は別に掲載いたしました特約店が165店（前回161店）、準特約店が88店（前回は75店）となりました。

特約店の書店様の数字の推移については、別表①に記しました。別表①の推移でみる限りでは、55年の220店をピークに低成長下の安定型になってきたのではないかと思われまふ。前回調査時の57年より若干増えているのはこの2年間に誕生した新規大型店が加わっており、実質的には横ばいといえます。また今回調査でも明らかなのは大都市型で、特に首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）

〈別表①〉 特約店の推移

| 年度      | 特約店 | 準特約店 |
|---------|-----|------|
| 昭和 49 年 | 188 |      |
| 51 年    | 190 | 72   |
| 53 年    | 197 | 80   |
| 55 年    | 220 | 98   |
| 57 年    | 161 | 75   |
| 59 年    | 165 | 88   |

では特約店協店のうち60店を占めております。全体的には特約店に選定させていただいた書店の変動は極めて少なく、約9割の書店様はほぼ固定化しつつあると見ております。ここ数年大型書店の占める割合が高いのは、展示スペース、顧客の動員力などからみても当然といえますが、S市のY書房のような、大変なご努力されている書店様もあることを特筆しておきます。

今回残念ながら選定から漏れた有力書店さん、次回は、昭和六一年の予定です。基準を目ざして頑張つて下さるようお願い申し上げます。

|                |       |                  |                               |       |            |             |                                      |                                  |                        |                   |      |         |       |             |                                                 |
|----------------|-------|------------------|-------------------------------|-------|------------|-------------|--------------------------------------|----------------------------------|------------------------|-------------------|------|---------|-------|-------------|-------------------------------------------------|
| 〈前橋〉           | 〈宇都宮〉 | 〈桜村〉             | 〈水戸〉                          | 〈郡山〉  | 〈福島〉       | 〈山形〉        | 〈仙台〉                                 | 〈盛岡〉                             | 〈秋田〉                   | 〈弘前〉              | 〈青森〉 | 〈帯広〉    | 〈函館〉  | 〈旭川〉        | 〈札幌〉                                            |
| 煥平堂 ※西武ブックセンター | ※新星堂  | 丸善大学会館店 ※丸善第二学群店 | 大生協<br>ツルヤブックセンター 川又書店駅前店 ※茨城 | ※東北書店 | 岩瀬コルニエツタヤ店 | 八文字屋 ※山形大生協 | 川内店 ※アイエ書店<br>ンター 八重洲書房 宝文堂 丸善 東北大生協 | アイエ書店駅前店 金港堂書店 金港堂ブックセンター ※さわや書店 | 東山堂書店 第一書店 ※東山堂ブックセンター | 今泉本店 弘前大学生協 ※紀伊國屋 | 成田本店 | ※田村サニー店 | ※森文化堂 | ブックス平和 ※三省堂 | 旭屋 紀伊國屋 リーブルなにわ パルコ富貴堂<br>北大学生書房 丸善 ※三省堂 ※なにわ書房 |

△高崎△※新星堂

△太田△※ナカムラヤ

△浦和△須原屋 ※須原屋コロソ店

△大宮△新栄堂 ※押田謙文堂

△千葉△キティランド 多田屋セントラルプラザ店

△船橋△旭屋 芳林堂津田沼店 ※西武ブックセンター

△松戸△※堀江良文堂

△市川△※弘栄堂

△柏△スカイプラザ浅野 ※新星堂

△横浜△栄松堂ジョイナス店 有隣堂イセザキ店 有隣堂

西口店 有隣堂東口ルミネ店 ※神奈川大生協

△川崎△※慶応日吉生協 ※横浜市大生協

江崎書店 ※ブックセンター文教堂 ※文学堂

△厚木△有隣堂

△小田原△伊勢治書店

△藤沢△有隣堂 ※西武ブックセンター

△平塚△東海大学互助会 ※サクラ書店駅ビル店

△千代田△東京堂 信山社 三省堂本店 書泉グランデ 丸

善お茶の水店 明大本校生協 旭屋水道橋店 法

政大学生協 ※山王書房 ※上智大学生協

△中央△丸善 八重洲ブックセンター 近藤書店 旭屋銀

座店 ※福家

△港△慶応大三田生協 ※虎ノ門書房

△文京△東大本郷生協

△台東△※明正堂中通店

△大田△※栄松堂蒲田店

△目黒△※都立大生協 ※八雲堂 ※三省堂自由ヶ丘店

△世田谷△※近藤書店 パルキリン堂

△渋谷△紀伊國屋 大盛堂 旭屋 三省堂 国学院大生協

△目黒△青山学院生協

△新宿△東大駒場生協

△新宿△紀伊國屋本店 三省堂西口店 早大本校生協 芳

林堂高田馬場店 ※西武新宿ブックセンター

△中野△明屋

△杉並△書原 ブックセライズ西荻 明和泉生協 ※ブ

ックセンター荻窪

△豊島△西武ブックセンター 新栄堂 三省堂 旭屋 芳

林堂

△武蔵野△紀伊國屋 弘栄堂 パルコブックセンター

△三鷹△※第九書房

△府中△啓文堂



【ユング心理学の記念碑】

## C.G.ユング 変容の象徴

精神分裂病の前駆症状

野村美紀子訳／秋山さと  
子解説 リビドを人間の  
生のエネルギーとして捉  
え、心の深層の神秘を解  
いた分析心理学の到達点。  
図版300点。 5000円



### 増 補 言語・その解体と創造 竹内芳郎

魂を深部まで管理してく  
る情報化社会に対峙する  
ための言語理論とは何か。  
待望の増補決定版。1800円

## ギリシア の哲学

哲学の歴史①

エミール・ブレイエ  
渡辺義雄訳 定評あ  
る哲学史の古代中世  
篇。本巻は、ソクラテ  
ス以前からアリスト  
テレスまで。2500円

東京 小川  
神田 町2

筑摩書房

△国分寺△※三成堂  
△国立△東西書店 ※一橋大生協 ※増田書店  
△立川△オリオン書房ウィル店  
△八王子△くまざわ書店 中央大多摩生協  
△町田△久美堂小田急店 有隣堂 ※久美堂本店  
△甲府△柳正堂  
△長野△平安堂 ※長谷川書店  
△松本△※遠兵  
△福井△勝木書店  
△金沢△うつのみや 金沢大生協 ※北国書林片町店 ※  
福音館  
△富山△清明堂 ※富山大生協  
△新潟△紀伊國屋 北光社 萬松堂 新潟大生協五十嵐店  
△沼津△宝塚マルサン

△静岡△江崎書店 吉見書店 谷島屋 ※静岡大生協  
△清水△戸田書店  
△浜松△谷島屋  
△豊橋△精文館  
△名古屋△三省堂 星野書店近鉄店 丸善 日進堂上前津店  
正文館 ちくさ正文館 池下三洋堂 枅中三洋堂  
名古屋大南都生協 ※丸善ブックメイツ ※ウニ  
タ  
△岐阜△自由書房 ※大衆書房  
△四日市△白揚  
△津△※別所書店第11ビル店  
△京都△同志社大生協 立命館大生協 京都書院 丸善  
駿々堂京宝店 ナカニシヤ 京都大学生協 竜谷  
大生協 アバンテアー ※リーブル京都 ※オー

ム社 ※葵

△大阪▽

旭屋ナンバ店 旭屋本店 紀伊國屋梅田店 旭屋  
アベノ店 ユーゴー ※ナンバブックセンター

※大阪市大生協

△東大阪▽

ヒパリヤ書店

△豊中▽

大阪大生協石橋店

△吹田▽

関西大生協

△高槻▽

コーベブックス西武高槻店

△奈良▽

南都書林

△和歌山▽

宮井平安堂

△神戸▽

神戸大生協 コーベブックス 淳久堂 日東館

丸善 海文堂 淳久堂サンパル店 ※甲南大生協

※ユーカー南天荘

△西宮▽

関西学院大生協

△姫路▽

誠心堂

△鳥取▽

富士書店

△松江▽

今井書店 ※園山大学前店

△岡山▽

紀伊國屋 丸善 弘栄堂 細謹舎本店

△広島▽

紀伊國屋 丸善 ※金正堂 ※平和書房 ※広文  
館本店 ※広島大生協 ※フタバ図書八丁堀店

△山口▽

文栄堂本店

△下関▽

中野書店

△高松▽

宮脇書店

△徳島▽

森住丸善 ※小山助学館東口店

△高知▽

金高堂 ※高知大生協

△松山▽

紀伊國屋 丸三書店 ※明屋大街道店 ※愛媛大  
生協

△北九州▽

金栄堂 ※井筒屋ブックセンター

△福岡▽

紀伊國屋 ルーブル天神 九大法文生協 ※金文  
堂 ※積文館

△久留米▽

ブックスたがみ

△長崎▽

好文堂 ※長崎大生協 ※長崎書店 ※三章文庫

紀伊國屋 まるぶん

△大分▽

本町晃星堂 ※晃星三省堂

△鹿児島▽

鹿児島大生協 ※坂口金海堂

△那覇▽

球陽堂

《別表②》人文会特約店 年間売上 ベスト50店

| 順位 | 地 区 | 書 店        | 売上枚数    | 順位 | 地 区 | 書 店       | 売上枚数   |
|----|-----|------------|---------|----|-----|-----------|--------|
| 1  | 新 宿 | 紀伊國屋本店     | 132,888 | 26 | 横 浜 | 有隣堂西口店    | 16,458 |
| 2  | 大 阪 | 紀伊國屋梅田店    | 88,413  | 27 | 京 都 | 立命館大衣笠    | 15,704 |
| 3  | 〃   | 旭 屋 本 店    | 60,616  | 28 | 千代田 | 東 京 堂     | 15,607 |
| 4  | 中 央 | 八重洲ブックセンター | 55,159  | 29 | 渋 谷 | 旭 屋       | 15,382 |
| 5  | 千代田 | 三 省 堂 本 店  | 54,136  | 30 | 横 浜 | 栄松堂ジョイナス  | 14,890 |
| 6  | 京 都 | 駿々堂京宝店     | 52,900  | 31 | 名古屋 | ちくさ正文館    | 14,884 |
| 7  | 豊 島 | 西武ブックセンター  | 41,978  | 32 | 神 戸 | 淳 久 堂     | 14,804 |
| 8  | 八王子 | 中 央 大      | 38,241  | 33 | 札 幌 | 旭 屋       | 14,509 |
| 9  | 渋 谷 | 大 盛 堂      | 30,708  | 34 | 新 宿 | 三 省 堂     | 14,416 |
| 10 | 文 京 | 東 大 本 郷    | 29,873  | 35 | 横 浜 | 有隣堂東口ルミネ  | 13,876 |
| 11 | 名古屋 | 丸 善        | 28,138  | 36 | 広 島 | 紀 伊 國 屋   | 13,831 |
| 12 | 目 黒 | 東 大 駒 場    | 27,173  | 37 | 札 幌 | 紀 伊 國 屋   | 13,748 |
| 13 | 新 宿 | 早 大 本 校    | 25,255  | 38 | 千代田 | 法 政 大     | 13,587 |
| 14 | 千代田 | 書泉グランデ     | 23,400  | 39 | 豊 島 | 旭 屋       | 13,161 |
| 15 | 豊 島 | 芳 林 堂      | 23,262  | 40 | 名古屋 | 日 本 福 祉 大 | 12,348 |
| 16 | 福 岡 | 紀 伊 國 屋    | 22,097  | 41 | 中 央 | 旭屋銀座店     | 12,191 |
| 17 | 中 央 | 丸 善        | 20,130  | 42 | 横 浜 | 有隣堂イセザキ店  | 11,846 |
| 18 | 仙 台 | 東 北 大      | 19,251  | 43 | 港   | 慶 応 大 三 田 | 11,733 |
| 19 | 平 塚 | 東 海 大      | 18,999  | 44 | 吹 田 | 関 西 大     | 11,394 |
| 20 | 渋 谷 | 紀 伊 國 屋    | 18,495  | 45 | 渋 谷 | 国 学 院 大   | 11,334 |
| 21 | 千代田 | 明 大 本 校    | 17,611  | 46 | 札 幌 | 北大学生書房    | 11,242 |
| 22 | 名古屋 | 三 省 堂      | 17,155  | 47 | 京 都 | 丸 善       | 11,100 |
| 23 | 大 阪 | 旭屋ナンパ店     | 17,083  | 48 | 西 宮 | 関西学院大     | 11,056 |
| 24 | 新 宿 | 芳林堂高田馬場    | 16,692  | 49 | 武蔵野 | 弘 栄 堂     | 11,015 |
| 25 | 大 阪 | 旭屋アベノ店     | 16,527  | 50 | 京 都 | 京 都 大     | 10,566 |

(注) 本調査は会員22社の1年間(調査期間は各版元の集計期間による)の人文書のみの売上げスリップを集計したものです。

# 人文会会員名簿

(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)

60.5. 現在

|      | 社名      | 担当者   | 〒番号 | 所在地                     | 電話                |
|------|---------|-------|-----|-------------------------|-------------------|
| 幹事   | 青木書店    | 山根 襄  | 101 | 千代田区神田神保町1-60           | 292-0481          |
| 幹事   | 大月書店    | 原田 敦雄 | 113 | 文京区本郷2-11-9             | 813-4651          |
|      | 御茶の水書房  | 和田 充博 | 102 | 千代田区九段北1-8-2            | 230-2510          |
| 幹事   | 紀伊國屋書店  | 佐久間健雄 | 156 | 世田谷区桜丘5-38-1            | 439-0125          |
|      | 勁草書房    | 石橋 雄二 | 112 | 文京区後楽2-23-15            | 815-5277          |
| 幹事   | 社会思想社   | 渡辺 和彦 | 113 | 文京区本郷1-25-21            | 813-8105          |
| 幹事   | 春秋社     | 神田 治  | 101 | 千代田区外神田2-18-6           | 255-9611          |
|      | 晶文社     | 萬洲 隆男 | 101 | 千代田区外神田2-1-12           | 255-4501          |
|      | 誠信書房    | 濱地 正憲 | 112 | 文京区大塚3-20-6             | 946-5666          |
|      | 創元社     | 重光 義彦 | 162 | 新宿区山吹町77                | 269-1051          |
| 幹事   | 筑摩書房    | 菊池 明郎 | 101 | 千代田区神田小川町2-8            | 291-7651          |
|      | 東海大学出版会 | 岡田栄三郎 | 160 | 新宿区新宿3-27-4<br>東海ビル     | 356-1541          |
| 休会中  | 東京創元社   |       | 162 | 新宿区新小川町1-5              | 268-8231          |
| 会長   | 東京大学出版会 | 中平千三郎 | 113 | 文京区本郷7-3-1              | 812-2111<br>内7955 |
|      | 〃       | 竹内 康一 | 〃   | 〃                       | 811-8814          |
|      | 日本評論社   | 後藤 光行 | 160 | 新宿区須賀町14                | 341-6161          |
|      | 福村出版    | 福村 惇一 | 112 | 文京区小石川1-3-17            | 813-3981          |
|      | 平凡社     | 伊藤 隆  | 102 | 千代田区三番町5 Kビル            | 265-0455          |
|      | 法政大学出版局 | 市川 昭夫 | 102 | 千代田区富士見2-17-1<br>法政大学構内 | 237-1731          |
| 代表幹事 | みすず書房   | 相田 良雄 | 113 | 文京区本郷5-32-21            | 814-0131          |
|      | 未来社     | 西谷 能英 | 112 | 文京区小石川3-7-2             | 814-5521          |
|      | 雄山閣出版   | 武 一雄  | 102 | 千代田区富士見2-6-9            | 262-3231          |
|      | 有斐閣     | 佐藤 進  | 101 | 千代田区神田神保町2-17           | 265-6811          |
|      | 吉川弘文館   | 川越 重行 | 113 | 文京区本郷7-2-8              | 813-9151          |

販売委員会 ◎菊池 ○萬洲 石橋 伊藤 佐藤 川越

弘報委員会 ◎原田 ○和田 岡田 西谷 武

調査・企画委員会 ◎渡辺 ○竹内 濱地 重光 福村 市川

◎印は委員長 ○印は副委員長

# カウントダウン

## 宇宙戦争への秒読み

松前達郎・坂田俊文監訳  
ストックホルム国際平和研究所（シプリ）の研究  
員とBBCの記者が明かす米ソ宇宙戦略の全貌！  
スターウォーズへの秘蔵みちやう宙まわりの全貌！  
S・D・Iは果して実効性があるのか。レーザー兵器  
は核兵器を時代専断にしてしまうのか。  
建築哲也氏批評 専門家が書いた素人にもわかる「ス  
ターウォーズ」論が出た。

タモツ・シブタニ著  
〈現代社

**流言と社会**

タモツ・シブタニ著  
《現代社会科学叢書》

良明、後藤將之、  
 広井、脩、橋元

四六判三五〇頁 定価一、九〇〇円

例えば大地震のような災害時になぜ流言が生まれるのか。豊富な実例を引きながら、流言の様々な側面を社会集団との関連において考察する。特に日本の読者には興味の深い研究書

**異文化間コミュニケーション**  
K.S.シタラム 御堂岡潔訳 定価二、〇〇〇円

# 思春期対策

作田 勉・猪股文二編 非行・家庭内暴力・いじめなど思春期青少年の諸問題について現状を分析し、その原因と対策を具体的な事例を示しながら徹底的に探っている。

二三〇〇円

圖說  
**臨床精神分析學**

前田重治著 精神分析の理論やフロイトの系譜  
およびフロイト以後に発展した理論などを一四一  
の図や表でわかりやすく説明している。精神分  
析を学ぶ人のための恰好の概論書。三〇〇〇円

これまでで最高の5万地名、本格的日本地図帳ついに登場

# 日本大地図帳

GRAND ATLAS JAPAN

修 梅棹忠夫／佐藤久／西川治／  
監 野村正七／正井泰夫

特色

- ▼新幹線、高速道路、地域開発などの最新情報を盛り込んだ新編集。▼6色刷りを基本にした地形表現で見やすい。
- ▼分県図は50万分の1、市街図は2万5千分の1、正確で精密。▼同じ種類の地図は同縮尺だから比較が簡単。

体裁 A3変型判タテ42×横29.1cm 総256頁 上製本 箱入り

●特別定価15,800円(60年6月末迄) 定価18,000円

平凡社 丁102 東京都千代田区三番町5

升味準之輔 四六判 ①一八〇〇円 ②一九〇〇円  
以後 上・下

## 現代政治

一九五五年

安保騒動、所得倍増、列島改造、石油ショック、田中金脈、ロッキード、交錯する光と影の中を潜行跳躍する政治家たちの群像とドラマ。自民党支配の動態と変容を描く。大石嘉一郎編 A5判 四八〇〇円

## 日本帝国主義史1 第一次大戦期

帝国主義的世界体制の展開のなかで歴史具体的に解明。植上康男 菊判 五八〇〇円

## フランス帝国主義とアジア

アジア支配の要となった銀行の興亡通し近現代史を照射。銀行史研究 菊判 五八〇〇円

東京大学百年史編集委員会編(全10巻) ●内容見本呈  
通史一、二 資料一、二 各巻 八〇〇〇円

東京大学出版会  
〒113 東京都文京区本郷7-3-1 ☎03-811-8814

法政大学出版局

# 混沌時代 上下

I・ウェリコフスキー 鈴木敬信訳

古代世界を襲った宇宙大異変を大胆に推論してセンセーションを巻き起した『衝突する宇宙』の姉妹篇。膨大な文献・資料を博引旁証しつつ、イスラエル人のエジプト脱出からアレキサンダー東方征略までの東方世界一二〇〇年の歴史を再編成し、動乱の時代の王国と民衆の歴史絵巻を描く。上下巻各一六〇〇円

東京都千代田区富士見2-17/☎237-1731

日本評論社

# 日本型競争社会の構図

飯尾 要著 定価一六〇〇円

現代の競争社会は様々な歪みと弊害をもたらしている。例えば、職場における人間関係からくるストレス、幼ない時から押し寄せる受験競争の荒波の様に。本書は教育、技術、社会、精神分析学等の成果を盛り込んだ学際的アプローチから現代文明の将来をも照射する問題作。

〒160 東京都新宿区須賀町 ☎03-341-6161

# 古代文化史入門 ハンドブック

武光 誠

政治史・経済史との関連に十分に  
目配りして飛鳥文化から平安末ま  
での日本の文化を究明する手掛り  
を示す。 2500円

# 東南アジア 仏教美術入門

伊東照司

みずから撮影した多くの写真と具  
体的詳細な地図を示し、スリラン  
カを含む東南アジア7か国の仏教  
遺跡と美術を紹介する。 2500円

雄山閣

千代田区富士見2 / 振替東京3-1685

# 日常性の構造

物質文明・経済・資本主義 I

F・ブローデル 15・18世紀の日常生活をトータルに描く。  
全世界の衣食住。全六冊(内容見本星)村上光彦訳 2500円

# 世紀末の診断

一九八四年以後の世界

I・ハウ編 権力と管理社会をめぐる諸問題を、視界ゼロの  
世界でコワコワスキほか八人が解析。柳文園近他訳 3000円

# 萬葉の世紀とその前後

(下) 北山茂夫・遺文と  
書簡2(第2回)

「水平社創立宣言」を日本人の権宣言と位置づけた被差別  
部落史論ほか大伴家持論・王朝史論など19篇を収録 3000円

# 陸羯南全集

10 (全10巻完結)

近代日本の最高の政論記者、明治の国民主義者の全集完結。  
書簡・詩歌・回想・年譜収録。西田・植手・坂井編 2500円

東京文京本郷  
3丁目17-15

みずず書房

佐藤 章著

# ルポ 内申書

見えない鎖

中学校での内申点操作の驚くべき実態をはじめ  
いま高校入試の内申書をめぐって生じている教育  
現場の様々な歪んだ状況をルポ。定価1300円

(5時間討論・21世紀の日本を考える)

各1300円

平和 — なにをいかにして守るのか

教育は変えられるか

司会・田原総一郎  
制作・KBS京都

東京都文京区  
小石川3-7-2

未来社

電話・代表  
(814) 5521

# 露木茂の話の輪は和

露木 茂著

露木のテクニク//二十一年間一貫して、報道の最前線に  
いる豊かな経験をもとに、さまざまなエピソードを紹介しな  
がら、上手な話し方のコツを、わかりやすく面白く語る。

# 縄文人は生きている

戸沢充則編

原始との対話//東京武蔵野の真中に出土遺跡の発掘のあ  
いだ熱心に観察し時に参加をした小学生たちが形づけた企画集に  
考古学者の解説を加えて、縄文人の生活をいきいきと描く。

有妻の閣 東京神田神保町2  
電話03-264-1311

今人を知り、歴史を識る。

## 人物叢書へ新装版へ

「最も正確な伝記として親しまれてきた『人物叢書』が、読みやすい活字で造本も一新したへ新装版へになりました。」

(第1回配本)

親 聖徳太子 一〇〇円 淀 君 九〇円  
北条政子 二〇〇円 福沢諭吉 二〇〇円  
鸞 一〇〇円  
以後、毎月3冊ずつ刊行

吉川弘文館 東京都文京区本郷7-2

大月書店

03(813)4651

ニューメディア時代を迎える出版界

### ②出版

85年6月刊行

### ①放送

85年5月刊行

フランク書局の内側からの問題提起

### ③新聞

85年7月刊

新聞ジャーナリズムの課題

### ④変貌するマスメディア

9月刊 メディアの明日を考える

## シリーズ・情報新時代のマスメディアの行方を探る マスコミの明日を問う

全4冊

研究集団「コミュニケーション'90」編 A5判・予価各1600円  
めまぐるしく転変する情報新技術、再編の荒波にもまれるマスコミ。メディアの黒衣たち苦悩を交えつつ現状と明日を探る。

青木書店

山本広太郎著  
差異とマルクス 定価一六〇〇円

「疎外・物象化・物神性」現象学・構造主義など、現代思想が共有する支配的な思考形式へ「悟性主義」への批判をととして、マルクスの全体像へ迫る！

阪東 宏著 定価二〇〇〇円

## 歴史の方法と民族

現代における歴史研究の方法論および概念装置を吟味し、階級と民族との複合問題として現代「世界史を解明すること」を提唱！

東京神田神保町1-60 電話(292)0481

御茶の水書房

## R・ローティ／室井尚他訳 哲学の脱構築

〈6月刊〉A5判・予五〇〇〇円

「プラグマティズムの帰結」〈真理〉と「哲学」の特権的関係をゆさぶり、ポスト「哲学」的文化的あり様をプラグマティズムの諸理論に探る、ローティの話題作を完訳。

東京・九段北1-8-2/☎03(265)5746

非売品

昭和60年5月20日発行 年4回発行 第42号

発行所 人文会 みすず書房内

〒113 東京都文京区本郷5-32-21

(113-91 東京都文京区 本郷局私書函89号)

| 回覧者印 | 回覧者印 | 回覧者印 | 回覧者印 |
|------|------|------|------|
|      |      |      |      |